

齋場御嶽の休息日に関する記者発表について

○なぜ休息日を設けるのか？

- 年々齋場御嶽への来訪者が増加し、平成 23 年度では、約 40 万人の来訪者が予想される中で、マナーの悪い入域客が数多く見受けられるようになり、祈りを捧げる方々からの苦情が絶えない状況となっている。
- ・来訪者の増加に伴い、オーバーユースによる自然生態系への影響も懸念されていることから、自然保護の観点も重要である。
- ・そこで、南城市では、平成 24 年度より、聖地としての静寂さを確保し、マナー向上や自然保護を考慮する機会とするため、年 2 回の一定期間、齋場御嶽への入域を制限するための試験運用を実施する。

○なぜ休息日を旧暦で設定するのか？

- 入域制限の日程については、沖縄の年中行事が旧暦で営まれていることや、沖縄の旧暦文化を内外へ発信するという意味から、あえて旧暦による設定とする。
- ・具体的な日程は、旧暦の 5 月 1 日～3 日、10 月 1 日～3 日の年 2 回。
日程の設定については、何人も齋場御嶽への立ち入りが禁じられたとされる時期に配慮し設定する。

○なぜ休息日を旧暦の 5 月 1 日～3 日、10 月 1 日～3 日の年 2 回に設定するのか？

- (旧暦 5 月 1 日～3 日) 沖縄では旧暦の 4 月から 5 月にかけて、「山留 (ヤマドーミ)」という行事がある。植物の生育期間、野良仕事や山仕事を禁止したという内容だが、齋場御嶽の性質上自然保護という意味合いもあることから、あえて区切りのよい 5/1 から 3 日間と設定した。
(旧暦 10 月 1 日～3 日) 沖縄では旧暦 10 月に選ばれた者が山ごもりをし、心身を清め神となる「祖神」という行事がある。齋場御嶽でそのような史実が確認されているわけではないが、「自然に対して敬意を払う」という行為がまさに休息日の趣旨になっている。
さらに、現在年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日) は緑の館セーファの休館日でもあることから、日程的なバランスに配慮したものである。

○休息日は拝み目的の人も対象か？

- 基本的には、関係職員や管理員を含む齋場御嶽への全ての来訪者を対象にする。

○既に休息日にツアーや修学旅行を予定している所への対応は？

- 本日の記者発表後にこちらの把握する全てのメディアを通じて、旅行関係機関や関係者等に告知する。

○試験運用期間はいつまでか？

→・2～3年を目途に実施していきたい。

○以前から男子禁制について取り上げられているが実施する予定は？

→・来年から実施する「休息日」の実施状況を見ながら、さらに検討していく。例えば、男性は御門口から中へ向かって遥拝するなど、斎場御嶽が昔から行ってきた形に出来るだけ沿う形を提案していきたい。

- ・斎場御嶽と深い関係を持つ久高島は、地域の人々によって「基本的に拝所に入ることは何人も許されない」、「例外的に立ち入ることができるのは、祭事の際に神役の女性だけ」という先達の教えを固く守っている。

「御嶽は本来男子禁制であった」という本来の形を今に残す慣習として、県内でも周知されている。

○観光地という視点からするともっと来訪者を増やした方が収入も増えてよいと思うが？

→・斎場御嶽は観光地ではなく「聖地」である。南城市の目指す観光とは、ただ来訪者が多くなればよいというものではない。南城市の特徴は他の地域よりも「グスク」と「ウタキ」が数多く、まさに沖縄の精神文化の象徴というべき地域である。そのような地域特性を生かした観光形態、いわば「南城ツーリズム」の一つとして歴史文化遺産を活用した観光を推進している中において、南城市のよさが分かる観光客に来ていただきたいと考える。